柚脯（ゆばし）俗云ゆびし

柚乾也、造法用眞柚、穿去瓣核、用未醬汁、溲糯粉、合胡麻榧椒等、充空柚、覆蓋用淡醬油煮、熟攤于板、以板徐々壓之、晒乾收之、

〔草木性譜〕柚

處々に植、其樹刺あり、葉冬を經て凋まず、深綠色、本に小葉あり、春新條を生じ葉を發す、夏に至て葉間に五瓣の白花を開く、香氣あり、後果を結ぶ、初青色、冬に至り熟して黃色狀大なり、又邏柚（はたゆ）廣東新語は果の狀小なり、その新條を生ずる時、偶葉形整はずして白粉を傅（つ）き、病の如なるものあり、其末より漸々に蟲に化し、終に葉莖を離る、狀烏蠋（いもむし）の如し、惡臭を發す、秋に至り鳳子蝶（あげはのてふ）三才圖會に化し去る、此餘柑橘橙の類にも蟲を生ず、又樹根竹根の土中に於て春蟬の形をなし、夏に至り終に生を得て土中より出づ、其土上に出ざるもの、頭上より蕈の如きものを生ず、蟬花本草綱目と云ふ、凡化生の中に類を以て化するは理なり、類にあらずして化するものあり、陳麥蝶となり、竹葉溪蟹となるの類は理外なり、是皆造化の奇功、これを論じ窮べからず、

〔重修本草綱目啓蒙二十一山果〕柚　ユ和名抄　ユウ　ユズ筑前雲州　イズ雲州　ホンユ阿州　モチユ同

上　カウトウ中國　一名大橘大倉州志

柚ハ諸國ニ多シ、寒國ニモ育シ、冬間食用トス、色黃白皮厚シテ肌粗シ、一種ハナユアリ、樹小ク實ハ柑ノ大サニシテ、皮ニ疙瘩（イボ）多シ、樹ニアリテ久シク落ザル故、トコユ或ハジヤウユトモ云、色青キ時、皮ヲヘギテ酒食ノ香氣ヲ助ク、又花ヲモ用ユ、故ニハナユノ名アリ、實熟スル者ハ食用トセズ、是廣東新語ノ邏柚ナリ、時珍ノ說ニ、小者如柑如橙ト云ハ常ノ柚ナリ、

〔倭名類聚抄十七菓〕櫱椵　爾雅注云、櫱椵廢語抄云柚柑、柚屬也、

〔箋注倭名類聚抄九果蔬〕本草和名引崔禹、載櫱子在橙條、別無和名、今俗呼由加字者、其實似柚、又似

櫱椵